

令和7年度 学校教育計画 最終評価

教育理念	— 真理の探究 — 自他の敬愛 — 責任の完遂	
学校教育目標	1 現代社会におけるグローバル化・情報化の進展や産業技術の発展をふまえるとともに、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、多様な科目を開設して生徒の個性を伸長させる。 2 将来の職業選択を視野に入れた進路設計への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。 3 マンツーマン指導を基本として、個々の生徒の興味・関心・能力・適性及び進路等にきめ細かく対応し、それぞれの希望する進路実現を支援する。	
中期目標	(1) ライフプランを考え、進路実現させ得る組織的な学校づくり (2) 体系化されたキャリア教育のシステムによる「生きる力」を育成する学校づくり (3) 授業等の様々な学習活動を通じて、健康な心身と体力を育成する学校づくり (4) 地域社会と連携し信頼される、開かれた学校づくり (5) 知識の確実な定着と実践的思考力を養う、魅力ある授業の研究 (6) 特色ある系列と進路実現に有効な科目選択の研究	総合評価 ・産業社会と人間や、農業、商業、家庭、福祉など多くの授業の中で地域の方と連携した活動を活発に実施することができた。その活動を通して地域の問題点や解決策を考えたり、生徒主体の「生きる力」を育む学習を推進することができた。活動の様子も#Shigakuやホームページなどで積極的に配信することができた。 ・PTA総会・講演会、桔梗祭、体験入学をはじめ、活気ある数々の教育活動を実践する環境を整え、外部から多くの方に見ていただくことができた。また、その様子を中学校や地域に情報発信することで、開かれた学校づくりに向けた取り組みを積極的に行うことができた。特に本年度は北信越地区総合学科教育研究大会があり県外の方にも、実際の教育現場を見ていただくことができた。 ・生徒に寄り添った生徒支援を継続し、一人一人の生徒にとり、いじめのない安心で安全な場所を提供することができた。その環境を今後も継続するために細やかな対応と外部機関との連携をさらに強めていきたい。
今年度の重点目標	①授業改善とキャリア教育（探究活動）の充実および進路実現に向け、生徒の主体的な取組を支援する ②いじめや体罰のない安心安全で、生徒がいきいきと活動できる環境を確保する ③教員一人ひとりが、指導力向上に向け自己研鑽に努めるとともに、同僚と協調・協働し職務を遂行する ④生徒の成長に寄り添ったキャリア教育を推進する中で、地域との信頼関係を築き、開かれた学校づくりを目指す ⑤再編に向けて田川高校と連携し、地域、生徒、保護者、教職員が情報を共有しながら再編実施計画を進める	

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
教務	1 志学生が安心して学校生活を送り、確かな学力と豊かな人間性を育めるよう他部署との連携を図り、円滑な学校運営を行う。	①②③	ア 月暦・日課等の作成と周知徹底、状況に応じた日程変更と連絡の徹底 イ 授業研究・授業公開の実施、サポート ウ 個々に教員の各種研修の推進、サポート	A	・月暦・日課等早目に作成し周知することができた。 ・公開授業の案内もSNSツールを使い積極的に案内することができた。	・職員の研修時間を増やすために、引き続き来年も早目に月暦・日課を作成すると共に、会議の時間を短縮できる工夫をする。
	2 授業改善、教育内容の充実を図り、その成果を積極的に保護者、地域、中学生に発信し、地域に理解され信頼される学校作りを目指す。	②③	エ 公開授業や体験授業を更に充実させ、在校生と触れる機会を提供する。 オ 中学生向けの出前授業・進路講話の地域を拡大し、本校に対する関心をさらに高め普及させる。 カ 中学校訪問等を通じた、本校の特色や入学者選抜の方法を中学校やへの周知	A	・昨年度よりも多くの中学生に体験授業・学校説明会に参加していただき、学校の様子を知ってもらうことができたが、猛暑により部活動の体験は縮小しなければならなかった。	・中学校教員向け入試説明会と学校説明会を一本化して、午後を実施するように計画をする。その時に、部活動の見学・体験できるように内容を見直し、多くの中学生にさらに学校を知っていただく機会を増やすようにする。
	3 P T A活動、地域と連携した諸活動を通じ、学校・家庭・地域社会を繋ぎ、生徒が安心して活動し、豊かな経験を積める環境を整える。	②③	キ 学校・学年・学級のP T A活動を通じて、学校と家庭における教育の情報を共有し豊かな学びの機会の充実 ク P T A会報などの内容と広報の充実拡大	A	・同窓会との共催による講演会や同日午前中の公開授業に多くの方が来校し、学校の様子を評価してもらえた。 ・PTA研修旅行などについて再考した方がよい。	・役員の方決め方や期間はその年度に限定することに变更される。
	4 いじめや体罰のない生徒一人一人が安心して取り組める活気のある教育の環境を整える。	④	ケ 生徒を取り巻く様々な状況の変化に臨機応変に対応できる態勢を整 コ Webサイト、#Shigakuなどによる教育活動の情報発信	A	・学校のホームページや#Shigakuで速やかに学校の情報を提供することができた。	・より多くの学校行事や授業内容を#Shigakuで取り上げてゆく必要がある。
	5 新校のイメージを田川高校の生徒や教職員と議論し、それを地域に発信する。	⑤	サ 生徒会と協力し、新校のイメージを考える機会や職員研修の場を学校間で設ける。	B	・両校の生徒会意見交流会など、生徒からも多くの活発な意見が出された。	・新校の学びのイメージの3本柱もほぼ決まったので職員にも浸透を図りたい。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
進路指導	1 各部署とのつながりを意識し、体系的・組織的に進路指導を行う体制を整えるとともに、職員間での情報共有を図る。	①③④	ア 生徒の進路に対する意識の向上と、基礎学力の定着を図るため、各部署と連携してより効果的な取り組みを研究、実践する。 イ スタディーサポートや模擬試験など学びの基礎診断ツールの効果的な活用を研究、実践する。 ウ 3年間を通じた進路指導の指針となるべく「進路の手引き」を作成する。	A	・生徒の学力実態に合わせ、本年度より1・2年生の6月・1月の全員模試を「進路マップ実力診断テスト」に変更した。 ・6月と9月にスタサポの分析会を開催し、生徒の学習状況など職員間で共有できた。	・業者提供の診断ツールなどを有効活用するために、職員の研修会を開きたい。 ・早期から進路意識を高めるため、「進路の手引き」作成を進める。
	2 自らの目標と進路の実現に向けて、主体的に行動できる生徒の育成を図る。様々な検定試験の受検を奨励する。	①②	エ 桔梗塾などの補習授業や勉強クラブ、各種検定に意欲的に取り組むよう促す。 オ 進路ガイダンス、進路相談会、オープンキャンパス、企業見学会への積極的参加を促す。 カ 「進路通信」「志学の時間」を通して、進路に関する情報を提供するとともに進路意識の啓発に努める。 キ 一人一人の生徒の状況に応じた進路が実現できるよう支援する。	A	・昨年度見直した新たな推薦基準を適用した。結果、公募制推薦にチャレンジする生徒が増加した。 ・指定校推薦の開示を夏休み前に行うことで、早めに出願の準備をさせることができた。 ・総合型選抜、公募制推薦で国公立大へのべ20人が挑戦した。依然ハードルは高い。	・本校における体験学習の位置づけを明確にし、キャリア教育推進部とともに対応していきたい。 ・科目選択、総合研究について、志望進路の実現という観点からキャリア教育推進部に協力し、進路指導部の立場で情報発信していきたい。
生徒支援	1 「対話と共感」、「自立と支援」の生徒指導 ① 基本的な生活習慣の確立 ② 服装・頭髪等の身だしなみを整える ③ 貴重品の管理、携帯・スマホ利用に関する注意喚起 ④ 交通事故の未然防止	②③④	ア 職員の共通理解と意識を統一し、生徒への声かけを大事にする。 イ 学習、行事、生徒会、クラブ活動を通して、学校生活の積極的な意義を見出すよう指導援助する。 ウ 交通安全指導を折に触れて行い、生命を尊重し安全を確認して行動する習慣を確立させる。	A	・生徒動向を職員間で共有し、生徒支援に努めることができた。 ・年5回校風指導を実施した。 ・校内巡視を実施し、貴重品の管理を徹底することで、盗難被害防止に努めた。	・職員間での情報共有、保護者との連絡を密にし、多くの目で見守る生徒支援に努める。 ・各種講演会の充実や交通安全教室の実施など、機を捉えた注意喚起を行い、規範意識や自己管理能力を育てる。
	2 いじめを出さない学校づくり ① いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を組織的に取り組む ② 常に開かれた相談態勢を整える	③④	エ 家庭との連絡や相談、スクールカウンセラー等の有効活用などで生徒や保護者を支援する。 オ HR担任、教科担任、生徒会、クラブ顧問との連絡を密にし、生徒個々の動向を明確に把握できるようにする。	A	・面談やアンケート等の活用により、いじめの未然防止に努めることができた。いじめに対し早期対応を心掛ける。 ・専門機関とも連携し対応することができた。	・面談やハイパーQ U、アセス、生活アンケートは継続して行なう。 ・支援の必要な生徒には、相談室を窓口にも各部署・専門機関と連携をとり対応する。
キャリア教育推進	1 総合学科の理念・目的に立ち返り、本校の強みとこだわりを整理した学科運営を丁寧に推進していく。	①②③④	ア 科目選択を通じて自己の価値観や可能性を広げられる機会となるよう、生徒一人ひとりに応じて、進路指導部・学年職員と共通認識を持ち、実践することができたか。 イ 進路指導上必要な説明を計画的に行い、生徒が自分の将来や社会との関わり、貢献について考える機会を設け、実践したか。	B	・一部の講座に希望が集中し、専門科目を中心に抽選になる講座が例年に比較して多くなってしまった。 ・科目選択提案書など進路と科目選択を総合化する取り組みは継続できた。	生徒と職員へのガイダンスをより丁寧にを行い、講座の閉開講や人数調整を複数職員で協議する機会を設ける。科目選択を見えやすくし、抽選や講座の人数の不均衡などを無くす。一人ひとりの進路も踏まえ、調整日を導入する。
	2 キャリア教育に係わる「探究的な学び」を計画・実行する。生徒が自ら考え行動できるように事前・事後指導を丁寧に行える職員体制を整える。	①②③	ウ 探究的な学びを通して自己や他者への理解を深めるとともに、自ら課題を解決しようとする姿勢を養うことができたか。 エ 各学年の学習計画を「共通探究テーマ」を軸に接続性・発展性を持ち、職員の連携を強化し、生徒の学びをサポートできたか。	A	・産社、シオジリ学での探究の基礎や協働して学ぶ姿勢を2年次、3年次と接続性より強化したい。 ・各学年の取り組みは細かい部分も協力していただいた。	一年次での探究的な姿勢が2、3年次の探究、キャリア学習、科目選択、進路実現と深まるよう、次年度計画に「共通探究テーマ」を反映させていく。
	3 地域との連携を深め、総合学科高校としての本校の魅力を高める。	①③④⑤	オ 科目選択とシオジリ学を基礎として3年間発展的に学習できるプログラムとし、地域資源や探究教材を活用し、探究的な学習を実践できたか。 カ 生徒の活動や学習の成果を広く効果的に発信することができたか。	A	・「科目選択提案書」など科目選択に向けての取り組みを整理することができた。 ・探究成果や課外活動も含め、地域の連携・協力機関との協働成果が発表、報道される機会が多く持てた。	・科目選択については生徒の探究や進路実現につながるよう、科目選択提案書の取り組みを育てていきたい。 ・塩尻市を中心に外部との連携を精査して、コーディネートしていく。結果として地域に学びの成果をより発信できる機会とする。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
生徒会	1 生徒会活動に参加することにより、豊かな人間性を育て、相互理解を深める。	①②④	ア 生徒会活動を通し、生徒相互の関わりを深め、コミュニケーション能力の向上を図る。 イ 目標の達成を目指し、継続的な努力をする事で、高校生活に対する達成感を持たせる。	A	・密に連絡を取り合っ生徒間で信頼関係を築き、トラブルがあっても挫けることなく役員同士支え合っ活動していた。 ・明確なガイドラインや指示を出すことができていなかったため、計画の頓挫があった。	・生徒が楽しみながら積極的に活動に取り組み、それぞれの目標を達成していくためには「教員の協力体制が整っている」という安心感が必要である。環境を整える事にも注力したい。生徒会部の中だけでなく分掌間の結束がより強くなれば、生徒にとっても職員にとってもメリットが多いと考える。
	2 生徒自らが目覚と責任を持って活動することにより、主体性をはぐくむ。	①②④	ウ 明確な目的を持たせ、立案、企画運営を行わせる事で、リーダーとしての資質を向上させる。 エ 生徒会活動を通し、ひとりひとりの役割を理解することで、互いに協力する関係をつくる。	A	・それぞれが役割に責任を持ち、人任せにすることなく主体的に動きながら生徒間での協力体制も整っている。 ・主体的に取り組めると信頼して、生徒に一任していると報道相や業務を怠ることがあった。	・信頼していても、必ず業務の進捗や人間関係の状況などができる限り把握できるよう、職員が生徒に積極的に関わっていききたい。 また、「生徒会活動は社会に出る上で必要なスキルを学べる機会」ということをもって伝えていききたい。
ICT 図書 視聴覚	1 ICTを活用して学校教育の充実を進める。	①②	ア ICTを効果的に使い、生徒の主体的・協働的な学びを促す。 イ 探究活動等におけるICTを活用した指導を推進する。 ウ ロイロノートやGoogle Classroomの多岐にわたる活用を進める。	A	・授業だけでなく、志学の時間や各種行事等において、ロイロノートを活用することができた。 ・各学年の探究活動や総合研究の時間において、さらなる機材の活用をしていく必要がある。	・様々なICT機器が耐久年数に達し、不具合やトラブルが多くなってきた。職員間での連絡を密にするともに、行政とも連携して対応していききたい。 ・職員のICTに関してさらなる知識向上のため、DX委員会とも連携して研修会等の実施も検討していききたい。
	2 ICT環境を整えて校務における活用を促進する。	③④⑤	エ 学校ウェブサイトやSNSを通して学校の情報を発信する。 オ 統合型校務支援システムを活用して業務の効率化を図る。	A	・今年度からInstagramを廃止し、各部署に依頼して各種行事や日々の活動を学校HPに掲載し、校内外の方に向けて広く発信することができた。	・校務支援システムを活用する際には、複数人でチェックするなど体制を強化していくようにしていきたい。
	3 図書館運営の充実を図る。	①②③	カ 図書館利用の活性化を図る。 キ 生徒の読書活動の向上を図る。 ク 図書委員会による積極的な広報活動を行う。 ケ 生徒の探究活動に沿った蔵書の拡充を図る。	A	・生徒と職員の購入リクエスト、及び総研テーマ関連に対応し蔵書が一層充実した。 ・委員会企画の読書旬間、ピブリオバトルのイベントは、Classroom連絡を密に行い参加者も多く活性化した。	・引き続き探究的な学びを深める支援をし、図書館の機能が果たせるよう努力したい。 ・他館との連携も継続し、図書館の多面性を深め上げたい。図書委員会を中心として利用の活性化を図り、全校生徒への読書の関心を高めたい。
	4 視聴覚教育の充実を図る。	①②③	コ 視聴覚教室・視聴覚機材の教育活動への利用拡大を図る。 サ 芸術鑑賞の円滑な運営を行う。 シ 芸術鑑賞を通して、豊かな心を涵養する。	A	・芸術鑑賞を円滑に運営をすることができ、生徒自身が鑑賞を通じて、自らの考え方や生き方を見つめ直すことができた。	・本年度は、他校との合同開催であったため、なかなか時間等に制限がかかり苦勞した場面があったので、独自開催になるように働きかけを行いたい。 ・鑑賞内容については、生徒に事前学習を行わせた上で、最適なものを選択していききたい。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
保健厚生	1 校舎内外の清掃の徹底 ゴミの分別による減量 草花などの装飾による積極的な美化活動	①②④	ア ゴミの分別と減量化・生徒の取り組みの強化 イ 気持ち良い落ち着いた学習環境の提供	A	・ゴミステーション当番、モップ交換、ワックス掛け、感染症予防等、生徒会美化委員会と協力しよくできた。 ・ゴミの分別(ペットボトル、アルミ缶)、文化祭時のゴミの分別による減量化が徹底してできた。	・日常的な校舎の清掃の徹底とゴミ分別・削減に、個々の生徒が意識高く行動できるように各委員が更に生徒へ伝達していきたい。
	2 検診のスムーズな運営と保健教育(講和)の充実	②④	ウ 保健委員会と職員の協力体制を強化する。 エ 外部講師の活用および教育方法の研究をする。	A	・ともに職員の協力があり、予定通り実施できた。がん教育講演会も継続実施した。	・来年度も計画通り実施したい。
	3 職員厚生の充実	③	オ ストレスの軽減とリフレッシュ行事の推進	A	・職員研修(調理体験)は好評で、普段の仕事上とは異なるいいコミュニケーションをとる機会となった。	・来年度も親睦とリフレッシュを兼ねた職員研修を実施したい。
1学年	1 基本的生活習慣の確立	①②③	ア 規律ある学校生活を送るための注意喚起ができたか。 イ 保護者と密に連携することができたか。	A	・時間を守ること、場面に合わせて切り替えることに主眼をおいて取り組んだ。保護者連絡を密に行うことで、家庭の協力を得ることができた。集団として未熟な部分について、引き続き注意を促していきたい。	・学年通信や学級通信を活用した注意喚起を継続して行う。 ・学年集会を定期的に開催して、集団としての課題を生徒ならびに職員間で共有する。
	2 自己理解・他者理解の促進	①②	ウ 自己理解を深めるための取り組みができたか。 エ 互いに尊重し合う関係を育てるための契機をつくり出すことができたか。	A	・平素の授業に加えて、文化祭やクラスマッチなどの学校行事、校外学習を通じて、自己理解を促した。これを自己ならびに他者の尊重につなげるための働きかけに注力していきたい。	・クラス替えを行うことで、多様な人間関係を構築し、自己理解を深める契機を増やす。 ・文化祭や研修旅行といった学校行事の際に、クラスの枠を超えた関係づくりを促す取り組みを実施する。
	3 学習態度の涵養	①③④	オ 周囲と協働して学習に向かう姿勢を育てるための取り組みができたか。 カ 家庭学習を習慣化させるための働きかけができたか。	A	・協力して学習に取り組むことの楽しさを感じられるように、協働する場面を積極的に設けた。後期より家庭学習に取り組む姿勢が改善が見られた。今後は、働きかけの工夫をしていきたい。	・キャリアプランニング等の探究学習の際に、グループ学習を積極的に実施する。 ・進路希望に合わせて学習目標や家庭学習時間を適切に設定できるように支援する。
2学年	1 進路意識の高揚、集団形成と支援体制を整える	①②③④	ア 学年全体、進路希望別での学習活動ができたか。 イ 進路指導部とキャリア推進部の連携によるCPの充実が図れたか。 ウ 個別に学力・生活状況に対応した相談・助言ができたか。	A	・生徒を進路希望別に編成し、次年度の進路選択に向けた学習を計画的に進めることができた。あわせて進路指導部およびキャリア教育推進部との連携体制も図られた。	・進路に迷いを示す生徒もみられるため、今後も最終進路決定に向けた支援を継続し、学習意欲が高まるよう指導を行う。
	2 研修旅行の充実	②③④	エ 平和学習の充実が図れたか。 オ 訪問する各地の地理・歴史・文化について理解を深められたか。 カ 互いに協力しあい、自らの役割を果たし有意義な研修旅行になるように指導できたか。	A	・係が主導し、各クラスにおいて文化祭展示を実施した。事前学習では訪問先の地理・歴史・文化について理解を深めた。係や班ごとに役割を分担し、協力して活動を進めることができた。	・学年間の交流や共同活動をもう少し増やせればさらに良かった。
	3 相互理解を深める	③④	キ 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。 ク 保護者との連携を密に取ることができたか。	A	・研修旅行の係、班活動を通して互いの理解が深まり協力関係が築けた。保護者とも連携を密にとり対応することができた。	・引き続き、教育相談係、スクールカウンセラーや養護教諭と連携し不安を抱えた生徒に対応していきたい。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
3 学 年	1 進路実現への指導、支援体制の充実	①③④	ア 学習意欲の向上、資格取得へのアプローチを図れたか。 イ 個性や適性などに応じた進路指導をできたか。 ウ 多様な入試制度に対応し、受験準備など計画的に活動できるように支援できたか。	A	・キャリアデザインやホームルームを通して、自らの進路を主体的に考え実現に向け必要な力をつけることができた。また、全職員で一人一人の進路実現を応援することができた。	・入試制度が多様多様になっていることを踏まえ、幅広い情報の収集、生徒への提供を速やかに行えるよう、進路指導部と協働して行える体制づくりを強化してゆきたい。
	2 コミュニケーション能力の向上	②③④	エ 互いに尊重しあえる関係が築けるようにアドバイスできたか。 オ 家庭との連絡を密にとれたか。 カ 社会の一員となるためのコミュニケーション能力を育成できたか。	A	・授業、生徒会活動などを通して、互いに尊重し合える関係やコミュニケーション能力を育成できた。また、家庭との連携を密にとることができた。	・さらに、円滑なコミュニケーションを図る能力を身に着けるために、様々な場面を設定していきたい。
	3 学校生活の充実と最上級生としての活動支援	①②③④	キ 学校・生徒会行事において責任ある活動ができるように支援できたか。 ク 規範意識を向上させ、社会性を身につけさせることができたか。	A	・各場面で中心的な役割を担い、充実した学校生活を送ることができた。	・不安定な生徒について、保護者との連絡と教員間の情報共有を密にして、指導していきたい。